

北海道ポーランド文化協会創立 15 周年記念誌

POLE



北海道ポーランド文化協会

創立15周年記念誌 P O L E

目次

◎刊行にあたって(会長 灰谷慶三)

やさしいポーランド語会話 22, 25号(1993.3, 1994.5)

1

◎北海道ポーランド文化協会の設立(「ポーレ」創刊号 1987.11)

北海道ポーランド文化協会設立総会開かれる／発起人代表のあいさつ(今村成和)／「ポ文協」の設立をお祝いします(熊倉ハリーナ)／設立の経緯(灰谷慶三)／私とポーランド(22年前のワルシャワ(遠藤道子)／カーシヤの贈りもの(長谷川洋行)／小林暁子)／エスペラント語(ザメンホフ生誕百年記念大会に参加して(馬場恵美子)／北海道ポーランド文化協会創立記念講演会(伊東孝之・藤原勲夫)／ポーランドクロニクル(一九八七年七月～一九八八年三月・伊東孝之) 創刊号, 4号(1987.11, 1988.8)

3

◎ポーランドの伝説・歴史

ポーランドの都市の伝説(1)水の精の予言(ワルシャワの起こり)・(2)古都の竜とカラス(クラクフ)・(3)カジミエシュ大王とユダヤ人女性エステルカ(栗原成郎) 44～46号(2000.1, 2000.6, 2000.10)／琥珀(北方の金(ザボトニク・ピオトル) 17号(1992.11)／やさしいポーランド史(伊東孝之) 41, 43号(1998.12, 1999.8)／知られざるポーランド(小原雅俊) 48～50号(2001.6, 2001.10, 2002.6)／総選挙で「連帯」市民委員会庄勝(伊東孝之) 7号(1989.7)／21世紀の亡命者たち(佐光伸一) 50号(2002.6)／ポーランド料理(野菜サラダ・豚肉のキノコソース煮・ピゴス)

13

◎ポーランドの美術・音楽・映画

ポーランド・ポストター100年展(グラフィック・デザインの奔流) 23号(1993.8)／絵の運命(國田祐作) 24号(1993.12)／ポーランド美術散歩(國田祐作) 39～42号(1998.4, 1998.9, 1998.12, 1999.5)／ユゼフ・ヴィルコンの世界(斎田道子) 44号(2000.1)／シヨパンとノルヴェイト(三浦洋) 18号(1992.5)／交流が音楽を豊かにする(カジミエシ・コルト氏に聞く(三浦洋) 21号(1992.12)／ミツキエヴィチのバラードからシヨパンのバラードへ(「ブドリスの三兄弟」(三浦洋) 31号(1995.9)／一八四〇年のシヨパンと時代精神(三浦洋) 39～41号(1998.4, 1998.9, 1998.12)／シヨパンと「名の日」(三浦洋) 51, 52号(2002.9, 2003.3)／ポーランド映画の世界(第二回) (プルス原作・ハス監督「人形」について(灰谷慶三) 8号(1989.8)／聖週間とユダヤ人問題(本間富雄) 43号(1999.8)／「鷲の指輪」とゲームの理論(本間富雄) 44号(2000.1)／あなたの愛は何色(本間富雄) 45号(2000.6)／ポーランド料理(じゃがいものニョッキ肉ソース添え・くるみ入りクッキー)

27

◎ポ文協の活動

クロー教授の講演行われる(キュリー夫人の業績と生涯) 4号(1988.8)／ポーランド週間に多彩な提案 13号(1990.12)・六月にポーランド週間に講演会、展示会、料理講習会など多彩なもよおし・「ポーランド週間」行事案内 14号(1991.5)・内田莉莎子氏の講演を聴いて(柏原朝子) 15号(1991.9)・いもだんご(ポーランドの食習慣(熊倉ハリーナさん談) 16号(1991.10)／北海道ポーランド文化協会の歓迎レセプションにやせて(駐日ポーランド共和国大使ヘンリク・リップシツ) 19号(1992.8)／ポ文協・修学旅行記(私のある日)「十勝日誌」(栗原朋友子) 32号(1995.11)・おそまき(池田町紀行)「霜田千代磨」 33号(1996.2)／池田町ワイン祭りツアーに参加して(佐々木保子) 35号(1996.11)・ある日の旅だより(栗原朋友子) 36号(1997.4)／メラノヴィチ先生の三つのお土産(霜田千代磨) 42号(1999.5)／ポーランド演劇の現状について(ヤドヴィガ・ロドヴィチ女史の講演(霜田千代磨) 42号)／ポーランド語講習会を顧みて(世話人・富山信夫)／ポーランド料理(野菜スープ・鮭のポイル)

55

◎エッセイ(ポーランドと私)

69

スタシスさんのこと(佐々木秀明)2号(1987.12)／夢の民族・未知の言語(藤原興生)2号／ポーランドと私(本間富雄)6号(1989.4)／読者からの手紙(吉田邦子)6号／我が心のポーランド(霜田千代磨)7号(1989.7)／クロー先生のことなど(吉田宏)10号(1990.11)／二十六年前のこと(富山信夫)11号(1990.5)／クラコフに想う(吉本康子)13号(1990.12)／ストラドフスキ氏を想う(小笠原正明)19号(1992.8)／壊れ壊のミラーボール／ポーランド随想(霜田千代磨)24号(1993.12)／クラコフからカシューブまで／わたくしのポーランド熱(栗原朋友子)41号(1998.12)／輝く春(山川素子)34号(1996.7)／桜咲く国(富山信夫)41号(1998.12)／輝く春(山川素子)45号(2000.6)／ポーランドからチェン・ドブリー(山川素子・長野明美)43号(1999.8)／クラクフ留学記(佐光伸一)49号(2001.10)／ポーランド滞在記(柏倉涼子)51号(2002.9)／恋のお相手は…(菊地多美絵)52号(2003.3)／ワルシャワ滞在記(安藤むしめ)53号(2003.9)／ポーランド料理(じゃがいものブラツキ)

◎ポーランド旅行

87

ワルシャワ散歩27号(1994.8)／ポーランド感動の旅／訪問団参加者報告集・豪華な顔ぶれのツアー(小笠原正明)・大きな歴史を持つ小さな町(栗原朋友子)・ポーランド旅行での想い出(大和田りえ子)・ポーランドの旅を終えて(米光幸子)・シヨパンの巣(三浦洋)・塩の来た道／ヴィエリチカの伝説より(栗原成郎)・ポーランド旅行の思い出(藤平隆)・私とカーシヤのゲダンスク(小林暁子)30号(1995.5)／第2回ポーランド訪問団に参加して(松井俊和)・ポーランドの鷺鳥と犬(依田明倫)38号(1997.11)

◎ポーランドから来た人々

101

札幌滞在／最初の一週間(イエージ・トマシェフスキ)7号(1989.7)／札幌に住み始めて(小見アンナ)11号(1990.5)／ポーランド点描／ワタさんにインタビューをして(清水保子)19号(1992.8)／ポーランドで見たこと

感じたこと／三年ぶりの里帰り(熊倉ハリナ・清水保子)20号(1992.10)／ポーランドの学校では／アンナ・ワタさんにきく(斎田道子)22号(1993.3)／音楽と私(ヨーランタ・ルジンスカ・斎田道子)23号(1993.8)／考古学を学ぶアンナさん(斎田道子)27号(1994.8)／暮らしやすくなったポーランド／熊倉ハリナさんのレポート34号(1996.7)／紋別のグルメ(マジエーナ・ティムチヨ)36号(1997.4)／札幌でおもうポーランドのこと(アレクサンドラ・モクシンスカ)45号(2000.6)／ポーランドと似た北海道の森や動物(スワヴォミル・マズール)51号(2002.9)

◎さまざまな情報

113

本の紹介／『ポーランド現代史』伊東孝之著(高岡健次郎)・『北の十字架／ポーランド詩集』米川和夫訳5号(1989.2)／ポーランド・日本協会だより／日本のみなさまへ6号(1989.4)・ポーランド・日本協会の活動／日本週間のプログラム9号(1989.11)・日本語教室生徒の作文／そろばんきょうしつにはじめてかよって(ドロータ・ラスコフスカ)14号(1991.5)／ポーランドの物価(富山信夫)30号(1995.5)／新しいポーランドとの新しいお付き合い／バブル景気のポーランド(吉野悦雄)39号(1998.4)／ポーランドクロニクル(一九八八年三月～七月、一九八九年五月～六月・伊東孝之)47号(1988.8, 1889.7)

◎あとがき

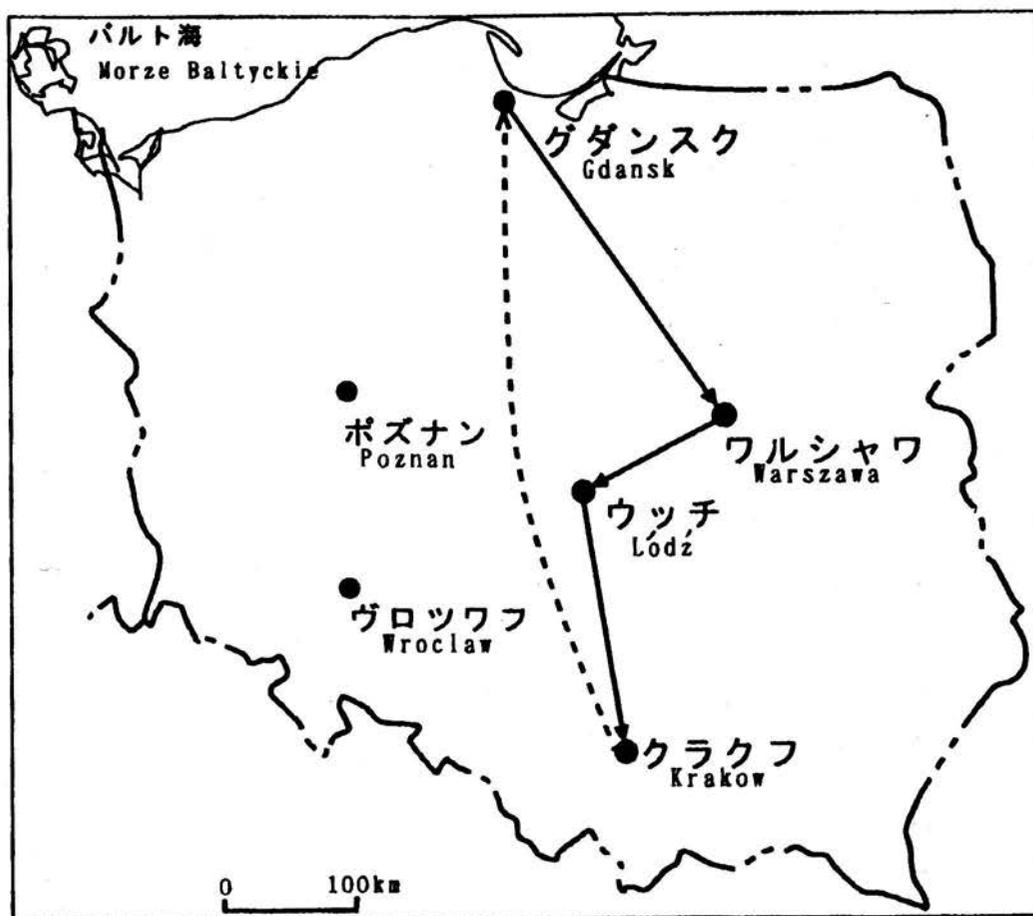
(10)

◎北海道ポーランド文化協会会報POLE第1～53号目次

(5)

◎北海道ポーランド文化協会活動年表1987～2003年

(1)



ポーランド共和国
Rzeczpospolita Polska